阿賀野川えとこだプロジェクト × 阿賀野川エコミュージアム → あがのがわ環境学習ツアー

新潟県

第13号
2014.8.1

阿賀野川 え～とこだより
aganogawa E-toko dayori

津川町の川港に集積された筏・奥は麒麟橋（明治後期～大正期、提供：田辺修一郎氏）

もくじ

特集1　阿賀野川エコミュージアムを目指す ―― 2
流域再生フォーラム（第4回）開催レポート
特集2　新潟水俣病の記憶から遠く離れて ―5
・映画「阿賀に生きる」阿賀野川遡上計画
・あがのがわ環境学習ツアー参加クラス募集
特集3　阿賀野川え～とこだ！流域通信 ―― 6
・特集！阿賀野川ものがたり「イザベラ・バード」
インフォメーション ―――― 8

阿賀野川の上流域から下流域までをつなぐ試みを

阿賀野川流域全体を舞台とした取組に欠かせない3つの考え方

「阿賀野川え～とこだプロジェクト」（FM事業）では、上流域から下流域にかけて少しずつ展開してきた各地での取組が昨年度までに一通り完了し、今年度からは阿賀野川流域全体を活動の舞台として、今後の集大成を意識した新しい試みを展開いたします。

具体的には様々な企画を構想していますが、どの取組を展開する際も、これまでのFM事業で培ってきた3つの考え方を重視しています。その3つとは、まず前号の巻頭言で言及した①「阿賀野川流域の過去をどう生かしていくか」と②「これからの時代にどうすれば必要とされるか」、そして新たに③「阿賀野川の上流域から下流域までをどうつないでいくか」。

これらの観点すべてを各取組にもれなく反映させていくのは制約が多く効率的でもないため困難が予想され、実際にはどれか一つを強調した取組になるかもしれません。しかし重要なのは、これら3つの観点をまずはできるだけ組み込もうとする試行錯誤であり、それは新潟水俣病の公式確認から50年を迎える来年に向けた取組においても同様に必要だと考えます。

※この情報誌は環境省の補助を受けて新潟県が発行しています。

新潟県

学習用リーフレット

新潟水俣病が教えてくれたもの 中学校編 作成しました！

新潟県では、中学校社会科〔公民〕学習用のリーフレット「新潟水俣病が教えてくれたもの〔中学校編〕～人間の活動と環境のかかわり～」を作成しました。

新潟水俣病のあらましがわかりやすくコンパクトに学べます！

産業活動により排出された有害物質で引き起こされた新潟水俣病
人間の活動と環境との関係を考える教材になっています

● 新潟水俣病を理解する4つのポイント
① 経済発展の光と影
② 新潟水俣病の発生と身体的被害
③ 新潟水俣病の社会的被害
④ 新潟水俣病の教訓を伝えるために

■ リーフレットが必要な場合はお問い合わせください。

印刷物　新潟県立環境と人間のふれあい館 ― 新潟水俣病資料館 ―
TEL 025-387-1450 ／ FAX 025-387-1451

データ　http://www.pref.niigata.lg.jp/seikatueisei/1356782007195.html

「阿賀野川え～とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」（通称FM事業）と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え～とこだ！憲章（事業理念）

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。　（阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会）

編集後記

第13号はいかがでしたでしょうか？

前号の編集後記では、「平成26年度から阿賀野川流域全体を活動の舞台として、今後の集大成を意識した新しい形の取組へと移行していく予定」と申し上げました。今号ではその最初の取組として、阿賀野川流域の過去と現在を情報発信しつつ未来へとアーカイブしていくため、「阿賀野川え～とこだ！ブログ」から総合的なポータルサイトへの大幅なリニューアルを取り上げました。

また今号でも触れましたが、来年5～6月に新潟水俣病の公式確認・発表から50年を迎えます。それに向けたFM事業の最初の取組について、次号にてお伝えする予定です。

阿賀野川え～とこだより 第13号
発行：新潟県（※環境省補助事業）　発行日：2014年8月1日
企画編集：一般社団法人あがのがわ環境学舎（〒959-2221 阿賀野市保田3866-1）

TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川え～とこだ！流域通信
http://www.aganogawa.info/
リニューアルしました！

特集1

流域のものがたりを紡ごう！

阿賀野川そとこだプロジェクト × 阿賀野川エコミュージアム

阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム

第4回

1年間の流域再生の取組を振り返る、年度末恒例のフォーラム。今年は3月30日に咲花温泉佐取館にて開催し、大勢の方々からご参加いただきました。今号ではその様子をレポートします！

開催レポート！

会場：咲花温泉佐取館

佐取館facebookページより引用・加工

レポート1 咲花温泉のかわまちづくりを学ぶ座談会

～ 咲花温泉かわまちづくりのこれまでとこれから ～

平成23年水害から復興する咲花温泉の今後を聴く！

平成23年に発生した阿賀野川の水害で甚大な被害を受けた咲花温泉ですが、築造中の堤防や河川敷を川床や植栽で彩るユニークな復興計画が注目を集めています。

当日は、その「かわまちづくり」の将来構想を座談会で議論した後に、まち歩きを兼ねて新たに改築された咲花駅やお馴染みの咲花きなせ堤河床などを、皆さんとともに視察しました。

座談会パネルリスト紹介

- 森田克彦氏（写真中央）
  （咲花温泉観光協会会長）
- 五十嵐実氏（写真右）
  （日本自然環境専門学校校長）
- 江川功氏（写真左）
  （NPO法人まちづくり学校理事）

レポート2 蒸しかまど製造の㈲小田製陶所を見学！

大きな蒸しかまどでの炊飯も体験！

阿賀野川中流域の粘土産業を象徴する地場産業の一つである「㈲小田製陶所」の陶管製造工場も見学。

さらに、木炭を使用する昔ながらの大きな蒸しかまどの炊飯体験も行われました！

一升炊きの蒸しかまどを使った炊飯体験の様子

参加者の主な感想等

- ●花が大好きなので構想通りの公園ができたら素晴らしい。一体感を感じた。（秋葉区・60代）
- ●地域再生にはとても良い。若い人が地域に残りたいと思える取組を増やそう。（阿賀町・50代）
- ●咲花きなせ堤河床はすべてが完成すると、素晴らしくなると思います。（阿賀町・60代）
- ●大きい蒸しかまどで炊いたご飯も美味しかった。地元の工場見学は良い企画と思います。（60代）
- ●地元の素材が使われていて、とても美味しくいただけた。すべてに愛情がある。（北区・60代）。
- ●ミニ蒸しかまどのご飯は香りが良くとても美味しい。米が甘く感じられて不思議。（阿賀野市・50代）

レポート3 阿賀野川流域の豪華な粗食“咲花”

MINI MUSHIKAMADO

ミニ蒸しかまど

話題のミニ蒸しかまどご飯試食付き！

当日は、阿賀野川流域の温泉旅館への導入や、大手小売業での販売が本格化し始めた、話題の「ミニ蒸しかまど」で炊いたご飯の試食も行われました。

今回の豪華な粗食は咲花温泉から全面協力いただき、流域の食材や郷土食の特長を盛り込んだ料理を、各旅館から1～3品ずつ調理していただいて完成させました！